

ワルミキ・ラーマヤン (01) / 冠絶する『ラーマヤン』の壮大な威徳

0001. 『ラーマヤン』の学習と功德、聴聞——その最良の時などについて、

0002. ナラド仙人とサナトクマール仙人の対話——呪われて悪魔になったブラーマンの解放、

0003. マーグ月における『ラーマヤン』聴聞の功德——スマティ王とサツチャワティ妃の前世、

0004. チャイトラ月における『ラーマヤン』読誦と聴聞の功德——獵師カリクとウツタンク仙人、

0005. 九日間での『ラーマヤン』聴聞の方法——その威力と功德について、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0001. ナラド仙人が始祖詩人ワルミキ仙人に説いたラーム神王の行伝，

0002. 『ラーマヤン』創作のきっかけ，

0003. ワルミキ仙人が説いた『ラーマヤン』のあらすじ，

0004. ラーム様の双子の子、クシとラウの『ラーマヤン』朗唱と吟唱，

0005. ダスラト大王に保護される、アヨッデヤの王都，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0006. ダスラト大王統治のアヨッデヤとその民の隆盛 ,

0007. 王宮の大臣たちの資質と高德 ,

0008. 王子誕生を求めるダスラト大王の馬供養の祭祀 ,

0009. スマントラ大臣、高德のリッシャシュリングア仙人の招請を進言 ,

0010. アング国へ来たリッシャシュリングア仙人がシャンタ王女と結婚した経緯 ,

フルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0011. ダスラト大王がシャンタ王女とリッサシュリングア仙人をアヨッデヤに連れてきたこと、

0012. ダスラト大王の意向で、仙人たちが大臣に祭祀に必要な物を調達させたこと、

0013. 祭祀の準備を要請されたワシスト仙人の采配、

0014. ダスラト大王による馬供養、

0015. リッサシュリングア仙人、ダスラト大王の王子誕生祈願を始める、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0016. ダスラト大王の三人の王妃の懐妊，

0017. ブランマ様の鼓舞で生まれた野獣集団，

0018. 四王子ラーム、バラト、ラクシマン、シャットルガンの誕生，

0019. ビシュワミットラ仙人のラーム様同行の申し入れ，

0020. 激怒したビシュワミットラ仙人，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0021. ビシュワミットラ仙人の怒りを鎮めるワシスト仙人，

0022. ラーム、ラクシマンに伝授されたバラとアティバラという呪術の秘法，

0023. サルジュ川とガンジス川が合流する神聖なる道場で一夜を過ごす，

0024. ビシュワミットラ仙人、女夜叉タトカの殺害を命じる，

0025. ビシュワミットラ仙人がラーム様に促したこと，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0026. 女夜叉タトカの殺害，

0027. ビシュワミットラ仙人、ラーム様に天界の武器を授ける，

0028. ラーム様がビシュワミットラ仙人に尋ねた、ある道場と祭場のこと，

0029. ビシュワミットラ仙人がラーム様に話した大覚者の道場の故事，

0030. ラーム様によるビシュワミットラ仙人の祭祀の保護と悪魔退治，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0031. ラーム、ラクシマン両王子とミティラ国に出発したビシュワミットラ仙人、

0032. 創造神ブランマ様の孫クシナブ王の百人の娘にかけられた風神の呪い、

0033. 大宇宙の最高原理ブランム様の想念の子ブランムダットとクシナブ王の王女たちの結婚、

0034. ビシュワミットラ仙人が語った、父ガーディ王の誕生と姉コウシキの頌徳、

0035. ガンジス川発祥の由来、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0036. シウ神と情交できなかつたウマ神妃がかけた、天人たちと大地への呪い、

0037. ガンガ女神から、天人軍の総帥カルティケイが生まれたという話、

0038. サガル王の王子たちの誕生と祭祀の準備、

0039. 天帝に奪われた神馬を探すサガル王の六万人の王子、大地を切り裂く、

0040. ブランマ様が予告したサガル王の王子の破滅、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0041. サガル王の孫アンシュマンが叔父たちの死を知らせたこと、

0042. アンシュマンとバギラトに創造神ブランマ様が授けた神約のこと、

0043. 大神シウ様が分けた湖の水をバギラト王がサガル王の王子たちの祖霊の死灰に注いだこと、

0044. バギラト王がガンガ女神の威光を広く賛嘆称揚したこと、

0045. チルサムッドラ (乳の海) の攪拌と魔神軍の破滅、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0046. ディティの胎内にもぐりこんだ天帝が胎児を七つに分断したこと，

0047. 天帝が太陽族の祖イクシュワク王の子ビシャラに都を創建させたいきさつ，

0048. 仙女アハッリヤが夫のゴータム仙人の呪いを受けた故事，

0049. 天帝が祖霊に取りつけてもらった雄羊の鞆丸，

0050. ビシュワミットラ仙人が語るラーム様とラクシマン両王子の生い立ち，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0051. シャタナンド仙人がラーム様を賛嘆し、ビシュワミットラ仙人の功業を語ったこと、

0052. ワシスト仙人、ビシュワミットラ王を歓迎する、

0053. 聖牝牛の神通力とビシュワミットラ王、

0054. 逃げ帰った聖牝牛が、ワシスト仙人の許しを得て敵を撃滅したこと、

0055. 大神シウ様の武器で戦うビシュワミットラ王に立ちはだかるワシスト仙人、

ウルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0056. 敗北を喫したビシュワミットラ王の決心 ,

0057. 祭祀の主宰をワシスト仙人に断られたツリシャンク王が頼ったもの ,

0058. 呪いをかけられ賤民になったツリシャンク王 ,

0059. 厳しく非難されたビシュワミットラ王仙が、仙人やその子息を破滅させたこと ,

0060. 天国への新しい道を開拓するビシュワミットラ王仙をとどまらせた天人たち ,

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0061. ビシュワミットラ王仙のプシカル聖地での苦行，

0062. 王仙アンバリシが買ったリチーク仙人の子シュン・シェプの保護，

0063. 苦行の功德を失った大聖仙ビシュワミットラ王仙の厳しい苦行，

0064. ビシュワミットラ仙人が天女ランバにかけた呪いと浄罪の儀式，

0065. プラーマンとなったビシュワミットラ仙人にジャナク王が歓迎の言葉を述べたこと，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0066. ジャナク王が話した娘シータを嫁がせる条件，

0067. ラーム様がシウ神の神弓を折ったこと，

0068. ジャナク王の招請を受け、ダスラト大王がミティラプールへ行く準備をしたこと，

0069. ミティラプールを訪れたダスラト大王とジャナク王の歓迎，

0070. ジャナク王が弟クシドウジ王を招き、ワシスト仙人が結婚の提言をしたこと，

ウルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0071. ラーム様とシータ王女、ラクシマンとウルミラ王女の成婚を宣言したジャナク王、

0072. バラト、シャトルガンの両王子とクシドウジ王の二人の王女との縁組み、

0073. ラーム様をはじめとする四王子の結婚の祝典、

0074. 帰国の途に就いたダスラト大王への吉凶の兆候とパルシュラーム仙人の出現、

0075. パルシュラーム仙人、ラーム様にビシヌ神の弓で矢を射ることを強要する、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [01] 子供の章

0076. ラーム様が放った矢とパルシュラーム仙人がマヘンドラ山に去ったこと、

0077. 四組の新郎新婦がアヨッデヤに帰還し、ラーム様が人々を満足させたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0001. ラーム様の太子任命を考えるダスラト大王，

0002. ダスラト大王がラーム様の立太子礼を提唱し、王侯たちが賛意を示したこと，

0003. ダスラト大王が立太子礼準備のためラーム様に説いた王政執行の心得，

0004. 王権譲渡を告げられたラーム様がシータ妃とともに受けた母コウサツリヤ妃の祝福，

0005. ラーム様とシータ妃に伝授された断食祈誓の方法，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0006. ラーム様とシータ妃が断食祈誓を守り、喜びに沸く都人が街を美しく飾り立てたこと、

0007. ラーム様の立太子礼祝典をうらやむマンタラの挑発、

0008. カイケイー王妃がラーム様を言祝ぐと、マンタラが躍起になってまくし立てたこと、

0009. マンタラの口車に乗せられて、呪いの館にこもったカイケイー王妃、

0010. 呪いの館にこもっているカイケイー王妃をダスラト大王がさまざまに宥め諭したこと、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0011. カイケイー王妃が要求した、バラトの立太子礼とラーム様の十四年間の森林生活、

0012. ダスラト大王がカイケイー王妃に泣きついたこと、

0013. ダスラト大王が泣きじゃくりながら、カイケイー王妃に哀願したこと、

0014. お墨付きの実行を迫られたダスラト大王とラーム様への呼び出し、

0015. スマントラ大臣がラーム様を迎えるために離宮へ行ったこと、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0016. ラーム様が楽器の演奏と賛歌に送られて、軍車で王宮に向かったこと、

0017. ラーム様が都大路の華やぎを見、賛辞を聞きながら、宮殿に着いたこと、

0018. ダスラト大王の悲嘆の理由とラーム様に森林行きを促したカイケイー王妃、

0019. ラーム様、森林行きを決意する、

0020. ラーム様の森林行きの話に気絶した実母コウサツリヤ王妃の悲しみ、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0021. ラーム様が父の命令を守る義務の重大さをラクシマンに説いたこと、

0022. ラーム様がラクシマンを諭し、灌頂の儀式のための祭具を撤去させたこと、

0023. ラクシマンがラーム様の立太子礼の挙行を大義に掲げて反対者と戦う決意をしたこと、

0024. 同行したいと訴えるコウサツリヤ王妃からラーム様が得た承諾、

0025. コウサツリヤ王妃が唱えた、ラーム様の幸せを祈る吉事開始の呪文、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0026. ラーム様に悲しみのわけを尋ねるシータ妃,

0027. シータ妃がラーム様に、森に連れて行ってほしいと懇願したこと,

0028. ラーム様がシータ妃の森林行きを断念させようとしたこと,

0029. シータ妃がラーム様に強調した森への同行の正当性,

0030. 泣きじゃくるシータ妃に、ラーム様が森へ行く準備をするよう命じたこと,

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0031. ラクシマンにラーム様がブラーマンへの財産分与の意志を伝えたこと、

0032. スヤギ仙人の妻に装飾品を布施し、ツリジャト仙人らに財産を分けたこと、

0033. ラーム様がシータ妃とラクシマンを伴い、父に会うためにカイケイーの後宮へ行ったこと、

0034. 別れの挨拶をするラーム様を見て昏倒したダスラト大王、

0035. スマントラ大臣の説得にも、カイケイー王妃が頑として応じなかったこと、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0036. ラーム様にダスラト大王が自ら同行する意向を表明したこと，

0037. ラーム様とラクシマンにつづき木の皮の衣も着ようとするシータ妃，

0038. ダスラト大王に、ラーム様が母に慈愛の目をかけてほしいと懇請したこと，

0039. ラーム様、王宮に別れを告げる，

0040. シータ妃、ラーム様、ラクシマンの森への出発とみなの悲嘆，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0041. ラーム様の森林への出発を悲しむ、女性たちの悲泣と都人たちの落胆、

0042. ダスラト大王が王宮に帰り、身も世もなく泣きじゃくったこと、

0043. コウサツリヤ王妃の悲泣、

0044. スミットラ王妃がコウサツリヤ王妃を慰めたこと、

0045. ラーム様がみなに家に帰るよう言い、老ブラーマンたちはタムサ川まで従ったこと、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0046. タムサ川の岸辺でみなが眠っているあいだに森へ向かったラーム様、

0047. 朝、ラーム様がいなくなったことを知った都人たち、

0048. 留守を守っていた女性たちが、泣いて訴えた苦衷、

0049. ラーム様がスマントラ大臣に感懐を述べたこと、

0050. ラーム様がガンジス川の岸で受けた、ニシャド族の王グハの歓迎、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0051. ニシャド王に真情を吐露して、ラクシマンが泣いたこと、

0052. シータ妃がガンジス川に捧げた加護の祈念、

0053. 都へ帰れとラーム様に諭されたラクシマンが求めたこと、

0054. ラーム様一行がチットラクート山の霊威について説明を受けたこと、

0055. チットラクート山へ向かったラーム様一行、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0056. チットラクート山に辿り着いたラーム様一行とワルミキ仙人，

0057. ラーム様の伝言，

0058. スマントラ大臣がラーム様とラクシマンの伝言を伝えたこと，

0059. アヨッデヤの都人たちの落胆ぶりを聞いたダスラト大王が嗚咽したこと，

0060. 悲嘆にくれるコウサツリヤ王妃を、スマントラ大臣が説得したこと，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0061. コウサツリヤ王妃が言ったダスラト大王への恨み言,

0062. コウサツリヤ王妃に膝を屈して合掌しながらダスラト大王が許しを求めたこと,

0063. ダスラト大王の罪の告白,

0064. ダスラト大王が受けた呪いの話とコウサツリヤ王妃の前で捨てた命,

0065. ダスラト大王の逝去を知った王妃と女官たち,

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0066. 棺に納められたダスラト大王と都の沈鬱，

0067. 聖仙人と大臣たちがワシスト仙人に、だれかを王にするよう要請したこと，

0068. ワシスト仙人の命令を受けて、ケカイ国の都へ急ぐ五人の使者，

0069. 不安を鎮めてあげようと思いやる友人たちに、バラトがした恐ろしい夢の話，

0070. バラトがシャトルガンとアヨッデヤへ出発したこと，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0071. バラトが望見した、アヨッデヤの都の惨状、

0072. 大王の死に号泣するバラトにカイケイーが追い討ちをかけたこと、

0073. バラトが母カイケイーに爆発させた狂おしいまでの怒り、

0074. 母カイケイーに浴びせた、バラトの激越な面罵、

0075. 偉大なる母コウサツリヤの前で、バラトが立てた誓い、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0076. ダスラト大王の葬儀，

0077. 泣きつづけるバラトを、宥め諭したワシスト仙人とスマントラ大臣，

0078. マンタラを殴り床を引きずりまわしたシャットルガン，

0079. バラトがラーム様に帰国を促すため、森への出発を決めたこと，

0080. アヨッデヤからガンジス川までにつくられた快適な王道，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0081. ワシスト仙人が大臣たちを集合させたこと、

0082. 即位灌頂の儀式を断り、バラトが森へ行く準備をはじめたこと、

0083. バラト率いる大旅団が森林へ出発、シュラングウェルプールで一夜を明かしたこと、

0084. ニシャド王グハによる川の警備と、バラトへのもてなし、

0085. 悲しみに沈むバラト、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0086. ニシャド王グハがバラトに情熱をこめて話したラクシマンの善意，

0087. ラーム様一行の食事などについて質問するバラトに、グハが説明をしたこと，

0088. ラーム様の芝草の寝床の跡を見て、バラトが吐露した森に入る思い，

0089. バラトがガンジス川を渡ってバルドアジ仙人の道場へ向かったこと，

0090. バルドアジ仙人がバラトに、道場に泊まるよう指示したこと，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0091. バルドアジ仙人がバラトの一行を大歓迎したこと、

0092. バラトがバルドアジ仙人に三人の母を紹介し、ラーム様の草庵へ出発したこと、

0093. 大軍団を率いるバラトが、チットラクート山への旅を続けたこと、

0094. ラーム様がシータ妃に、チットラクート山の美観を讃えたこと、

0095. ラーム様が愛妻シータ妃に説いた、マンダキニ川の優美、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0096. サール樹に登ったラクシマンが、バラトの大軍団を見て爆発させた怒り、

0097. ラクシマンが軽率を恥じ、バラトが大軍団を待機させたこと、

0098. バラトが、ラーム様の草庵をついに突きとめたこと、

0099. 草庵に着いたバラトたち一人ひとりをラーム様がきつく胸に抱きしめたこと、

0100. ラーム様がアヨッデヤの政情への質問にことよせて、バラトに説いた政治理念、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0101. バラトが要請した王位継承をラーム様が承認しなかったこと、

0102. バラトが話した父ダスラト大王の臨終の様子、

0103. ダスラト大王を供養しラーム様が号泣したこと、

0104. ラーム様、ラクシマン、シータ妃が、マンダキニ川でワシスト仙人の足を礼拝したこと、

0105. アヨッデヤへの帰還と即位灌頂を要請するバラトに、ラーム様が伝えた決意、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0106. バラトがラーム様に、アヨッデヤへの帰還と即位の受諾をふたたび要請したこと、

0107. ラーム様がアヨッデヤへ帰るようバラトに命じたこと、

0108. 無神論の考えに基づいてラーム様の説得を試みたジャバリ、

0109. ジャバリの無神論を論破して、ラーム様が有神論の思想を開陳したこと、

0110. ワシスト仙人がラーム様に語った天地創造の由来とイクシュワク族の伝統、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0111. 決意を変えないラーム様がふたたびバラトにアヨッデヤへの帰還を命令したこと、

0112. ラーム様がバラトに木履を授け、全員に別れを告げたこと、

0113. バラトがバルドアジ仙人に会い、アヨッデヤに帰り着いたこと、

0114. アヨッデヤの惨状を見た、バラトの嘆きと悲しみ、

0115. ラーム様から授けられた木履に即位灌頂の儀式をし、バラトが王政を執行したこと、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [02] アヨッデヤの章

0116. チットラクートを去って仙人たちが別の道場に移住したこと，

0117. アンスーヤ尼がシータ妃に説いた婦徳，

0118. アンスーヤ尼にシータ妃が公開婿選びの儀式について話したこと，

0119. シータ妃がアンスーヤ尼の贈り物を身につけてラーム様とラクシマンを喜ばせたこと，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [03] 森林の章

0001. ラーム様、ラクシマン、シータが受けた、苦行者たちの歓迎、

0002. 森の中でビラード悪魔に攻撃されたラーム様、ラクシマン、シータ、

0003. ビラード悪魔がラーム様とラクシマンを森の奥へ拉致したこと、

0004. ラーム様、ラクシマンによるビラード悪魔退治、

0005. ラーム様、ラクシマン、シータが訪ねたシャルバング仙人のブランマ様の国への旅立ち、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [03] 森林の章

0006. 森の仙人たちにラーム様が与えた身を守る約束，

0007. ラーム様たちがスティクシナ仙人の歓迎を受け、一夜を過ごしたこと，

0008. 早朝、ラーム様、ラクシマン、シータがスティクシナ仙人の道場をあとにしたこと，

0009. シータが不殺生戒を守るようラーム様に要請したこと，

0010. ラーム様が仙人たちを守るためにたてた悪魔族殲滅の誓い，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [03] 森林の章

0011. 聖地パンチャブサルとマンダカル二仙人にまつわる物語，

0012. ラーム様がアガステヤ仙人から歓迎を受け、天界の武器武具を授けられたこと，

0013. アガステヤ仙人がラーム様に道場を作ることをすすめたこと，

0014. パンチャワティへの途中でラーム様が聞いた大鷲ジャタユの生いたち，

0015. パンチャワティの森に造った道場で、三人が楽しく住みはじめたこと，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [03] 森林の章

0016. ラクシマンの言葉を聞いて、ラーム様がゴダワリ川で水浴したこと、

0017. 女悪魔シュルパンカがラーム様の妻にしてみもらいたいと願ったこと、

0018. ラーム様に拒まれ、シータを襲ったシュルパンカの耳と鼻をラクシマンが切り落としたこと、

0019. シュルパンカの兄カルがラーム様一行の殺害を悪魔に命じたこと、

0020. ラーム様が、カルの送った悪魔の戦士を殺害したこと、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [03] 森林の章

0021. シュルパンカが悪魔の全滅とラーム様の恐ろしさを話し、カルを挑発したこと、

0022. カルとドウシャンが、悪魔の軍勢を率いてパンチャワティへ出陣したこと、

0023. カルが悪魔の大軍団を率いてラーム様の道場に迫ったこと、

0024. ラーム様がシータをかくまうようラクシマンに命令したこと、

0025. 襲撃した悪魔軍団が、ラーム様の反撃を受けて全滅したこと、

ウルミキ・ラーマヤン (01) / [03] 森林の章

0026. ドウシャンともども一万四千の悪魔軍が一兵も残らず殲滅されたこと、

0027. ツリシラ悪魔の死、

0028. カルとラーム様の大激戦、

0029. カルが投げつけた錘つき棍棒を、ラーム様が矢で叩き折ったこと、

0030. ラーム様が、矢でカルを射倒したこと、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [03] 森林の章

0031. シータの拉致を計画したラーワン,

0032. 女悪魔シュルパンカがランカに来てラーワンに直訴したこと,

0033. シュルパンカがラーワンを挑発したこと,

0034. シュルパンカがシータを奪って妻にするようラーワンをそそのかしたこと,

0035. ふたたびマリチのところへ行くラーワン,

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [03] 森林の章

0036. ラーワンがシータ略奪の計画をマリチに話したこと，

0037. ラーワンに、シータ略奪の計画を思いとどませようとしたマリチ，

0038. マリチが自ら体験したラーム様の威力を話して、ラーワンの暴挙を戒めたこと，

0039. マリチによる、懸命なラーワンの説得，

0040. ラーワンがマリチを激しく叱咤し、シータ略奪への協力を厳命したこと，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [03] 森林の章

0041. マリチが悪魔族壊滅の脅威を説いて、再度ラーワンを諫めたこと、

0042. 金色に輝く大鹿に化けたマリチに、シータが幻惑されたこと、

0043. マリチの化けた大鹿を欲しがるシータをラクシマンに委ね、ラーム様が出発したこと、

0044. ラーム様の激しい不安、

0045. シータの妄言、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [03] 森林の章

0046. 行者の風姿で近づいてきたラーワンとシータの接待，

0047. ラーワンに自分の第一王妃になるようにすすめられ、シータが激しく叱責したこと，

0048. 大仰に威勢を誇示するラーワンを、シータが口をきわめて面罵したこと，

0049. 泣きながら空路ラーワンに連れ去られて行くシータを見た鷲の王ジャタユ，

0050. シータ解放の説得に失敗したジャタユ，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [03] 森林の章

0051. ジャタユとラーワンの激闘，

0052. 死に瀕した鷲の王ジャタユを見て、シータが号泣したこと，

0053. シータがラーワンを激しく責めたこと，

0054. ラーワンがシータを後宮に匿ったこと，

0055. ラーワンが第一王妃になるよう正式にシータに要請したこと，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [03] 森林の章

0056. ラーム様を熱烈に慕うシータに手を焼くラーワン ,
補遺 : ブランマ様の命令を受けた天帝、シータに乳粥を与える ,
0057. 悪魔マリチを殺したラーム様が恐れたシータの身の危険 ,
0058. シータがいないことを知ったラーム様の悲嘆 ,
0059. ラーム様とラクシマンの対話 ,

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [03] 森林の章

0060. 傷心のラーム様がいつまでもシータを探しつづけたこと、

0061. シータを発見できずに、ラーム様が悲嘆の淵に沈んだこと、

0062. 泣き濡れて止まぬラーム様——その一、

0063. 泣き濡れて止まぬラーム様——その二、

0064. ラーム様とラクシマンによるシータの探索、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [03] 森林の章

0065. ラクシマンがラーム様を説得して心を落ち着かせたこと、

0066. ラクシマンの重ねての説得、

0067. ラーム様とラクシマンが瀕死の鷲の王ジャタユと会い、胸に抱きしめて嗚咽したこと、

0068. 鷲の王ジャタユを、ラーム様が茶毘に付したこと、

0069. ラクシマンとラーム様がカバンド悪魔の両脇に挟まれて身動きがとれなくなったこと、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [03] 森林の章

0070. ラーム様とラクシマンがカバンド悪魔の両腕を切り落とし、感謝されたこと、

0071. カバンド悪魔がシータ探索に協力する約束をしたこと、

0072. 本来の姿を現したカバンドが助言した、スグリウと友情を結ぶことの大切さ、

0073. 莊嚴の相を示現したカバンド悪魔が天界へ旅立ったこと、

0074. シャブリの焼尽供養と昇天、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [04] キシキンダの章

- 0001. 身の不運を嘆くラーム様がリッシュラムク山へ向かうのを見て、猿の王スグリウが恐れたこと、
- 0002. スグリウらがラーム様とラクシマンへの恐怖と疑念を晴らすため、ハヌマンを送ったこと、
- 0003. ハヌマンの純正なサンスクリット語に驚嘆するラーム様、
- 0004. スグリウの協力を望むラーム様のため、ハヌマンがリッシュラムク山頂へ向かったこと、
- 0005. スグリウと友愛協力関係を結び、ラーム様がバリ殺害の約束をしたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [04] キシキングの章

0006. シータの肩掛けと装身具を見たラーム様が、怒気のみなざる言葉を発したこと、

0007. スグリウの話を聞いたラーム様が、願いを叶えてやると力強く宣言したこと、

0008. 身の不運を嘆くスグリウを慰めたラーム様が、バリと不仲になった理由を尋ねたこと、

0009. スグリウとバリが敵対するに至ったいきさつ、

0010. スグリウが追放されるに至ったいきさつ、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [04] キシキンダの章

0011. スグリウが話すバリの武勇伝、

0012. キシキンダでバリに敗北したスグリウが、ラーム様の激励を受けてふたたび出陣したこと、

0013. ラーム様の一行がキシキンダの都にまた戻ったこと、

0014. ラーム様からバリ討伐の保証を得たスグリウが、大音声の唸りをあげたこと、

0015. 飛び出そうとするバ리를妻のタラが止め、スグリウと戦うことの無謀を諭したこと、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [04] キシキンダの章

0016. 妻タラの諫言を聞かずにスグリウと激闘するバリが、ラーム様の矢の一撃に倒れたこと、

0017. 瀕死のバリがラーム様に恨み言を言ったこと、

0018. 非を悟ったバリが、息子アンガドの保護を求めたこと、

0019. アンガドを連れてタラがバリに近づき、むごいその姿を見て号泣したこと、

0020. タラの愁嘆、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [04] キシキンダの章

0021. ハヌマンの説得にも応じず、タラが殉死を決意したこと、

0022. スグリウとアンガドに真情を吐露したあと、バリが身を捨てたこと、

0023. 嘆き悲しむタラ、

0024. 自死を願うスグリウと、殺してほしいと願うタラを、ラーム様が思いとどませたこと、

0025. ラーム様の指示で猿たちがバリの遺体を荼毘に付し、水供養をしたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [04] キシキンダの章

0026. ラーム様がスグリウとアンガドの王位と太子位への就任を快諾したこと、

0027. プラスラワン山上に居を定めたラーム様とラクシマンの対話、

0028. 雨季明けを待つ間のラーム様の述懐、

0029. ハヌマンの進言に応じて、スグリウがニールに猿の軍団の召集を命じたこと、

0030. 秋の到来を語ったあと、ラーム様がラクシマンにスグリウの都へ行かせたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [04] キシキンダの章

0031. 猿の重臣、スグリウに義務遂行の大切さを説く、

0032. 事態を憂慮したハヌマンがスグリウを説得したこと、

0033. ラクシマンが掻き鳴らした弓弦の轟音に怯えたスグリウが、説得にタラを送ったこと、

0034. 酔眼朦朧として面前に現れ出たスグリウを、ラクシマンが激しく叱責したこと、

0035. 真心こめた訴えで、タラがラクシマンの怒りを鎮めたこと、

ウルミキ・ラーマヤン (01) / [04] キシキンダの章

0036. スグリウが許しを乞うと、ラクシマンがラーム様のところへ一緒に行こうと促したこと、

0037. スグリウが全軍召集をハヌマンに命じたこと、

0038. 軍団召集の準備がすすんでいるとのスグリウの報告に、ラーム様が満悦したこと、

0039. 多くの猿の軍団長が参集したと知らされ、ラーム様がスグリウに謝意を述べたこと、

0040. スグリウが立てた、シータ探索のための猿の調査団を東方に送る計画、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [04] キシキンダの章

0041. スグリウが南方世界に主要な猿の戦士を派遣したこと、

0042. スグリウが西方世界にスシェンなどの猿たちを派遣したこと、

0043. スグリウが北方世界にシャトバリなどの猿の勇士を派遣したこと、

0044. ラーム様が名前入りの指輪を渡して、ハヌマンを南方へ送ったこと、

0045. スグリウの前で必殺の決意を披露したあと、猿の勇士たちが各方面に出発したこと、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [04] キシキンダの章

0046. スグリウがラーム様に述懐した世界遍歴の体験，

0047. 東方などの三方面に遠征した猿の軍団の空しい帰還，

0048. 南方へ向かった猿の勇士たちが、シータ探索のために悪戦苦闘したこと，

0049. 軍団の長老ガンダマーダンに促され、猿たちがまた情熱に燃え、シータを探し始めたこと，

0050. 飢渴に喘ぐ猿たちが洞窟で見た木、池、邸宅などの天国さながらの情景，

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [04] キシキンダの章

0051. 苦行の老尼が、莊嚴な森と自分の紹介をしたあと猿たちに飲食をすすめたこと、

0052. 老ニスワヤンプラバの神通力に導かれて、猿たちが洞窟を脱出して海岸へ到着したこと、

0053. 約束を守れないアンガドなどの猿の勇士が、断食して命を絶つ決意をしたこと、

0054. タール長老の助言でスグリウへの反乱を考えだしたアンガドを、ハヌマンが説得したこと、

0055. 死に至る断食を決意したアンガドと多くの猿たちの同調、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [04] キシキンダの章

0056. 猿たちから弟ジャタユの死を聞いて、大鷲サンパティが事情を問い質したこと、

0057. サンパティにアンガドが語った、ジャタユの死のいきさつと猿たちの断食の事情、

0058. サンパティがシータとラーワンの居場所を告げたあと、弟ジャタユの水供養をしたこと、

0059. サンパティの息子スパルンシュラワがシータとラーワンを目撃したという話、

0060. サンパティの身の上話、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [04] キシキンダの章

0061. サンパティが、大聖者ニシャカル仙人に翼が焼けた原因を話したこと、

0062. ニシャカル仙人がサンパティに、ラーム様に協力するために生きよ、と命令したこと、

0063. 新しい羽根が生えてサンパティが大空高く飛翔したあと、猿たちが南方に出発したこと、

0064. アンガドが猿たちに、広大な海を跳び越える力があるかどうか問いかけたこと、

0065. 猿の勇者の跳躍力を聞き、ジャンプワンがハヌマンを奮起させようとしたこと、

ワルミキ・ラーマヤン (01) / [04] キシキンダの章

0066. ジャンプワンが全軍団の窮状を訴えて、ハヌマンに海を越える決意を促したこと、
0067. ハヌマンが、海をひとつ跳びにする情熱に燃えて、マヘンドラ山に駆け登ったこと、

